島根県邑智郡瑞穂町

宮原遺跡詳細分布調査報告書

1996年3月

島根県邑智郡瑞穂町教育委員会

序

瑞穂町は遺跡の町といわれるように，町内各地に多くの遺跡が所在しています。その数は550か所以上にものぼります。しかし多くの遺跡で，正確な分布範囲の確認がなされておらず，遺跡の取扱について苦慮しているところであります。宮原遺跡につきましても，その分布範囲や性格については不明でありましたが，土地所有者から，土地の有効利用のためにも遺跡の範囲を明らかにして欲しいとの要望があり，詳細分布調査を実施しました。その調査結果をここに報告します。

本報告書が今後の土地有効利用の一助になり，また，貴重な遺跡が保存されれば幸いです。

なお，今回の調査にあたりご指導いただきました関係機関や，協力いただきました土地所有者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成８年３月

瑞穂町教育委員会
教育長　澤　田　隆　之

例　　言

1．本書は島根県邑智郡瑞穂町大字伏谷345-1番地外における宮原遺跡詳細分布調査報告書である。

2．調査期間は，平成７年11月28日から12月22日である。

3．本書執筆，編集は森岡弘典が行った。

4．本書掲載の図面作成は，森岡弘典及び藤田睦弘が行った。

5．本書掲載の遺物写真撮影は古川健二が行った。

6．本書に掲載した地形図（第１図）は，建設省国土地理院長の承認を得て（承認番号平７中複第276号）国院発行の25000分の１を複製した瑞穂町管内図を使用したものである。

7．本書６・12頁の地形図に表示したＸ軸Ｙ軸は国土調査法による第Ⅲ座標系の軸方向である。

8．地形測量図，遺構実測図の矢印は真北を示している。また，本書で使用した遺物の略号は，Ｙ－弥生土器，ＳＵ－須恵器である。

9．出土遺物は瑞穂町教育委員会で保管している。

10．地形測量は測地技研株式会社に委託した。

瑞穂町域と宮原遺跡位置図

島根県邑智郡瑞穂町

宮原遺跡詳細分布調査報告書

目　　次

序
Ⅰ．調査に至る経緯および経過……1頁
Ⅱ．宮原遺跡の位置と環境……3頁
Ⅲ．調査区の概要と出土遺物……6頁
Ⅳ．まとめ……12頁

図版・挿図目次

図版第1　a．宮原遺跡空中写真（西より）　b．宮原遺跡遠景（北より）
図版第2　a．A1試掘区（北より）　b．A2試掘区（同）　c．A4試掘区（同）
図版第3　a．B3試掘区（北より）　b．B11試掘区（西より）　c．B14試掘区（北より）
図版第4　a．B21試掘区（北より）　b．B23試掘区（同）　c．B27試掘区（同）
図版第5　a．B11試掘区遺構検出状況（北より）　b．同完掘状況（同）　c．B11試掘区遺構より出土した弥生土器
図版第6　a．B11試掘区遺構より出土した弥生土器　b．包含層より出土した弥生土器（外面）　c．同（内面）
図版第7　a．畑地造成工事の際発見された弥生土器（昭和40年ごろ）　b．包含層より出土した弥生土器　c．同 須恵器（外面）
図版第8　a．包含層より出土した須恵器（内面）　b．同 磁器　c．同 石器

第1図　宮原遺跡付近遺跡分布図（1：25000）……5頁
第2図　宮原遺跡付近地形測量図・試掘区配置図……6頁
第3図　B11試掘区平面図（1：20）……7頁
第4図　B11試掘区出土弥生土器実測図（1：3）……7頁
第5図　各試掘区土層断面図（1：40）……8・9頁
第6図　包含層出土弥生土器実測図（1：3）……10頁
第7図　包含層出土須恵器実測図（1：3）……11頁
第8図　包含層出土石器実測図（1：4）……11頁
第9図　遺跡範囲図……12頁

Ⅰ．調査に至る経緯および経過

今回詳細分布調査を実施した宮原遺跡は，島根県邑智郡瑞穂町大字伏谷345-1番地外の段丘上に所在する周知遺跡である。本遺跡は，昭和40年ごろ段丘南側丘陵尾根を畑地化する工事の際に発見された遺跡である。関係者によると，ブルドーザで掘削した際，多くの土器が出土したとのことであるが，詳細については不明であった。これらの土地では近年まで主にタバコ栽培が行われていたが，高齢化による従事者不足等により，現在では休耕され雑草の生い茂る状態であった。

ところで，土地所有者の間で休耕地の有効利用の話し合いがもち上がったが，休耕地が周知遺跡であり，具体的な利用計画が立てられず，瑞穂町教育委員会に遺跡の正確な範囲について示して欲しい旨要請があった。教育委員会では，今後の遺跡の取扱等の協議においても遺跡の範囲を明確にしておく必要があると判断して分布調査を実施した。

調査は，平成７年11月28日から12月22日にわたり，次の調査体制で実施した。

調査主体　島根県瑞穂町教育委員会

調 査 員　森岡弘典（瑞穂町教育委員会文化財係長）
　　藤田睦弘（瑞穂町教育委員会主任主事）

調査指導　河瀬正利（広島大学文学部助教授）
　　吉川　正（島根県文化財保護指導委員）
　　川原和人（島根県教育委員会文化財課主幹）
　　今岡　稔（島根県教育委員会文化財課文化財保護主事）

事 務 局　澤田降之（瑞穂町教育委員会教育長）
　　河野義則（瑞穂町教育委員会教育課長）
　　星野暢子（瑞穂町教育委員会課長補佐）
　　平川　進（瑞穂町教育委員会課長補佐）
　　原田　牧（瑞穂町教育委員会主事補）

整理作業　市山真由美，古川健二

発掘作業　荒瀬義人，石川義昭，今田徳郎，岩根論，上川義夫，国信勇之進，洲浜軍太郎，高川秀夫，戸津川孝夫，戸津川里美，久光花枝，日高シズヨ，平川正寅，松島利郎，三上喜義，三上寛，森田ユキエ

なお，土地所有者の漆谷幸郎氏，上田トミ子氏，島井弥生氏，日高アヤミ氏，三上春雄氏，森影孝

嗣氏，渡辺洋介氏には発掘調査を円滑に進めるため多大なご協力をいただいた。城月寿彦氏には工事中土器が出土した状況についてご教示いただき，その時採集された土器を実見させていただいた。記して謝意を表したい。

発掘調査日誌抄

1995（平成7）年

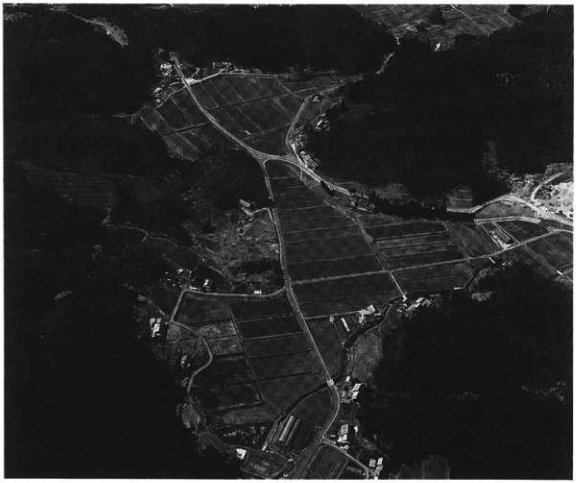
11月28日　本日より分布調査を開始する。調査機材を搬入し，2×2mの試掘区を34か所設定し調査を開始する。耕作土を除去すると，畑地化の際，完全に削り採られている部分と包含層が遺存している部分があることが判明する。

11月29日　引続き調査を実施。B11試掘区で住居跡と推定される遺構検出する。本日の調査ですべての試掘区を完掘りする。遺物の量は少ないがほぼ遺跡の範囲を確定する。

11月30日　各試掘区のセクションの実測とB11試掘区の遺構の実測終了。

12月20日　天候不順により調査を中断していたが本日写真撮影，およびB11試掘区の遺物の取上げを終了する。

12月22日　試掘区を埋めもどし，現地調査を終了する。



宮原遺跡空中写真（東より）

Ⅱ．宮原遺跡の位置と環境

島根県邑智郡瑞穂町は，島根県のほぼ中央部の邑智郡南部に位置する。南西には標高600～800ｍの中国脊梁山地が連なり，山地を境として広島県と接している。

この県境に源を発する出羽川は，瑞穂町のほぼ中央を蛇行しながら南西から北東に向かって流れ，その流域には狭小な沖積平野や河岸段丘からなる出羽盆地を形成している。出羽川は古時付近で流路を東に変え，羽須美村口羽で中国地方最大の河川の江の川と合流する。

また，石見町境にそびえる冠山（標高859ｍ）に源を発する円ノ板川は，高見地区で火室山（標高652.3ｍ）付近に源を発する高見川と合流し，その流域に小規模な沖積平野の高見盆地を形成し瑞穂町吉時で出羽川に合流する。

今回調査の対象となった宮原遺跡は，この合流点より北東約800ｍの小規模な段丘上（標高302～305ｍ）に位置する。この付近は基盤が高見第三紀層と呼ばれる海成層で形成されており，第三紀中新世の化石が産出することから地質学上からも注目されている地域[1]である。

ところで，瑞穂町内の遺跡，遺物については『島根県遺跡地図Ⅱ（石見編）』[2]や『瑞穂町内遺跡分布図』[3]によれば，現在のところ約550か所以上確認されている。その多くが中近世の製鉄遺跡であるが，時期的には旧石器時代から歴史時代に至るまでのものがある。

旧石器時代の遺跡では，宮原遺跡とは高見川を挟んで対岸に位置する横道遺跡[4]や岩屋地区の荒槙遺跡があげられる。また，近年中国横断自動車道の工事に先行して調査された堀田上遺跡[5]（市木）でも旧石器時代に遡る石器が確認されている。横道遺跡は1982年の詳細分布調査によると，丘陵頂部において姶良Ｔｎ火山灰の下から流紋岩製の石核，剥片類が出土している。遺構など明らかではないが，後期旧石器時代前半の石器群が存在すると思われる。また，島根県内で初めて発掘調査による旧石器時代の文化層が確認された遺跡でもある。

次に縄文時代の遺跡では横道遺跡，長尾原遺跡[6]（下亀谷），大畑遺跡（大草），大字根遺跡（伏谷），野田西遺跡[7]（上亀谷）牛塚遺跡（上亀谷）や中国横断自動車道工事に伴って調査された郷路橋遺跡[8]（市木）堀田上遺跡など町内各地で遺跡が明らかになりつつある。横道遺跡では縄文時代早期の押型文土器，繊維土器，縄文時代前期の刺突文，条痕文土器や石鏃，スクレーパーなどが出土している。大畑遺跡は縄文時代前，中期，大字根遺跡は後，晩期の遺跡といわれているが，詳細については明らかでない。なお，郷路橋遺跡では縄文時代早期から晩期の土器や石器，住居跡と考えられるピット群を出土している。また，堀田上遺跡は，丘陵の南側緩斜面から縄文時代早期の住居跡や押型文土器，石鏃，磨石，石皿，凹み石などが出土しており，縄文時代になると町内の各地で人々が生活しはじめたことがうかがえる。

弥生時代の遺跡には，野田西遺跡[9]，牛塚原遺跡，淀原遺跡（淀原），順庵原遺跡（下亀谷），馬場山遺跡（下亀谷），長尾原遺跡，滑遺跡（山田），石堂遺跡（和田），貧茂山遺跡（高見），段の原遺跡（高見），田ノ原坂遺跡（伏谷），倉谷遺跡（伏谷）などが知られている。弥生時代前期から中期かけての遺跡としては牛塚原遺跡，順庵原遺跡，堀田上遺跡，長尾原遺跡，淀原遺跡などが知られており，1975年[6]，1993年に調査された長尾原遺跡[5]では，弥生時代中期の竪穴住居跡が発見されている。

竪穴住居は直径6mの円形を呈し，中央部にピットを設けている。これらの遺跡は，出羽盆地の南側丘陵上に位置しており，弥生時代の農耕生活が沖積地をのぞむ湧水地点に近いところからはじまったことを示しているといえる。

弥生時代後期になると，川ノ免遺跡に隣接する滑遺跡をはじめ，多くの遺跡が出羽川の両岸に位置する段丘上や流域各地に分布するようになる。1991年に発掘調査がなされた馬場山遺跡では，2×1間の規模の掘立柱建物6棟，1×1間の掘立柱建物1棟からなる掘立柱建物群が確認されている[10]。また，この馬場山遺跡や順庵原遺跡に隣接して，四隅突出型墳丘墓の順庵原1号墓が築かれている。この墳丘墓は，10×8mの規模で墳丘上には箱式石棺墓2基，木棺墓1基の3つの主体がつくられており，主体内部や墳丘周囲の溝からガラス小玉や弥生土器が出土している。墳丘裾には貼石が巡らされ，周溝内にはストーン・サークル状遺構も見られる[11]。このような墳墓の出現は，農耕社会の進展とともに階層分化が始まった結果，共同体の首長墓としての墳墓が築かれたことを示している。また，御幸山墳墓（鱒淵）は，長さ2.8m，幅1.5mの墓坑の中に箱式石棺が築かれており，人骨や弥生土器が出土している[12]。いずれも弥生時代終末から古墳時代初頭の墳墓と推定される。

古墳時代になると遺跡はさらに増えてくる。集落関係の遺跡は，長尾原遺跡，順庵原遺跡，宇山遺跡（上原），狼原遺跡（和田），今佐屋山遺跡（市木）などがある。1968年に調査された長尾原遺跡では，3棟の竪穴住居跡や土坑墓などが発見されており，製鉄に関する遺構も検出されている[13]。また，1989年に調査された今佐屋山遺跡からも古墳時代後期の竪穴住居跡3棟と製鉄遺構1基が検出されている。いずれも方形で壁の一辺にはカマドが設置されている。製鉄炉跡は，1号竪穴住居の少し手前にあり，炉床部と土坑からなる。遺構の検出状況や炉内残留滓から炉形は隅丸長方形で規模は長さ45cm，幅38cmの箱形炉と推定される[14]。

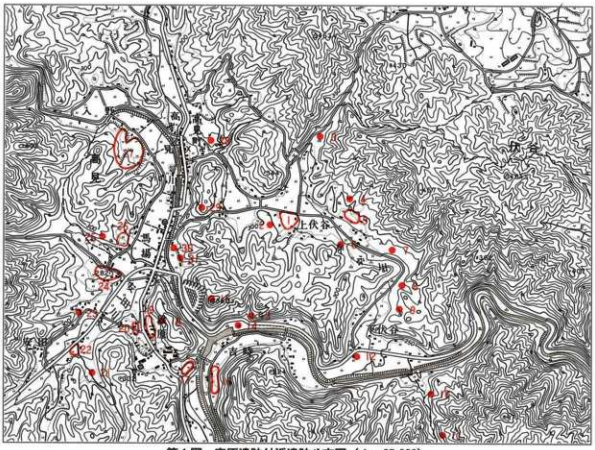
古墳は60基以上確認されている。古墳時代前半期の古墳と推定されるものは20基以上からなる鱒淵古墳群（鱒淵）[15]や御幸山古墳群などがある。いずれも直径10m前後の円墳や方墳で，中には無墳丘のものもあるといわれる。小形の竪穴式石室を内部構造とする段の原古墳（高見）も古墳時代前半期のものと思われる。古墳時代後半になると，横穴式石室を内部埋葬施設とする直径10m前後の円墳が築かれている。大宇根古墳（伏谷），塚田古墳（伏谷），牛塚古墳群（上亀谷），杉谷古墳群（下亀谷），右堂古墳群（和田），長尾原A古墳群（下亀谷）などがある。また，江迫横穴墓群（淀原）などのように，丘陵斜面に横から穴を掘りこんで墓室をつくった横穴墓もつくられてくる。このほか，古墳時代後半から平安時代にかけての須恵器窯跡も数多く分布する。青少年旅行村グラウンド窯跡（出羽），江迫窯跡（淀原），後鉄穴窯跡（淀原），石井迫窯跡（三日市），上管窯跡（鱒淵）など20基ちかくに及んでいる。これらの窯跡は久永古窯跡群と呼称されており，島根県有数の須恵器の生産地であったことが知られている。

歴史時代の遺跡としては，古代の須恵器窯跡の他，中世の山城跡や製鉄遺跡がある。山城では鎌倉時代に宮永氏（出羽）氏が築城したといわれる二ツ山城跡をはじめ，高橋氏の本城，別当城跡などの山城や柵跡が確認されている。また中近世の製鉄関係遺跡では，製鉧場である鉄跡や大鍛冶屋跡が数多く分布し，鉄床鉄跡（伏谷），大原鉄跡（伏谷）を初めその数は約300か所以上にも及ぶ。また，砂鉄採集の鉄穴場跡，切羽跡は町内全域に分布しており，製鉄が盛んに行われたことがうかがえる。

註

(1). 松川勝喜「地誌」『瑞穂町誌』第1集 瑞穂町教育委員会 1964年。
(2). 島根県教育委員会『島根県遺跡地図 (石見編)』 1992年。
(3). 瑞穂町教育委員会『瑞穂町内遺跡分布図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ』 1985,1986,1990,1991,1992年。
(4). 河瀬正利『横道遺跡－詳細遺跡分布調査報告－』 瑞穂町教育委員会 1976年。
(5). 島根県教育委員会『主要地方道浜田八重可部線特殊改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－堀田上・今佐屋山・米屋山遺跡の調査－』 1991年。
(6). 吉川正「瑞穂町の遺跡」『瑞穂町誌』第3集 瑞穂町教育委員会 1976年。
(7). 瑞穂町教育委員会『いにしえの瑞穂－水明カントリークラブ内埋蔵文化財発掘調査概報－』 1995年。
(8). 島根県教育委員会「郷路橋遺跡」『中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』 1991年。
(9). 前掲註(7)。
(10). 吉川正・今岡稔『瑞穂町長尾原Ｆ区道城住居址調査報告書』 瑞穂町教育委員会 1975年5月。
(11). 瑞穂町教育委員会『長尾原遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 1994年。
(12). 瑞穂町教育委員会『馬場山遺跡発掘調査概要書』 1991年。
(13). 門脇俊彦「順庵原１号墳について」『島根県文化財調査報告書』第７集 島根県教育委員会 1971年。
(14). 門脇俊彦『御幸山弥生式墳墓調査概報』 瑞穂町教育委員会 1969年。
(15). 門脇俊彦『農免道路新設に伴う長尾原遺跡及び長尾原一号墳調査概報』 島根県川本農林土木事務所 1969年。
(16). 前掲註(5)。
(17). 瑞穂町教育委員会『鱒淵４号墳他発掘調査報告書』 1994年。

なお、上記参考文献以外に『瑞穂町誌』第１集(1964年)、第２集(1966年)を参考にした。



第１図　宮原遺跡付近遺跡分布図（１：25,000）

1．宮原遺跡
2．上伏谷瓦窯跡
3．田ノ原坂遺跡
4．大字根古墳
5．大字根遺跡
6．鉾床鉾跡
7．倉谷遺跡
8．大原鉾跡
9．登尾鉾跡
10．青松ワル谷１号鉾
11．青松ワル谷２号鉾
12．塚田古墳
13．吉時１号鉾跡
14．吉時２号鉾跡
15．琢道城跡
16．塚原遺跡
17．横道遺跡
18．段ノ原古墳
19．段ノ原Ｂ遺跡
20．段ノ原Ａ遺跡
21．実光奥鉾跡
22．安田遺跡
23．竹屋田出口遺跡
24．賀茂山遺跡
25．馬場大鍛冶跡
26．八幡山遺跡
27．重石遺跡
28．野鍛冶大鍛冶屋跡
29．高見古墳
30．寺山遺跡
31．盛椿寺跡

Ⅲ．調査区の概要と出土遺物

今回の調査は，土地再利用計画地内における宮原遺跡の分布範囲確認のため，計画予定地内をA・Bの2調査区に分け2×2mの試掘区をA区に6か所，B区に28か所設定した。

以下，調査区の概要と出土遺物について述べる。

1．調査区の概要

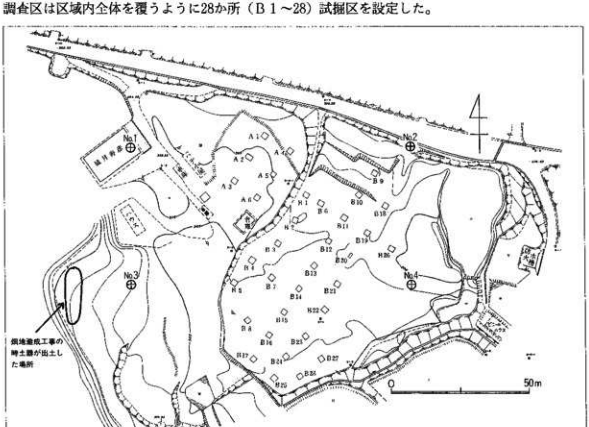
(1)A区（第2・5・9図，図版第2a～c）

丘陵の西側に位置しており，この部分は丘陵の東側（B区）より一段高く，比高約3mである。現況は北側へ向かって僅かに傾斜をなしており，表面観察ではあまり地形の改変がなされていないと推定され，遺構の存在が予測されたので，6か所（A1～6）試掘区を設定した。調査の結果，耕作土の下は粘性の黄褐色土地山となり，後世の畑地化で改変されていたことが判明した。遺構や遺物の出土は皆無である。

(2)B区（第2～5・9図，図版第3a～第6a）

一段低い東側丘陵は，調査区外の東端が僅かに高く，かつては小規模な谷地形であったと推定された。現況は全体にほぼ平坦であるが北側に二段の小段がある。

調査区は区域内全体を覆うように28か所（B1～28）試掘区を設定した。



第2図　宮原遺跡付近地形測量図・試掘区配置図

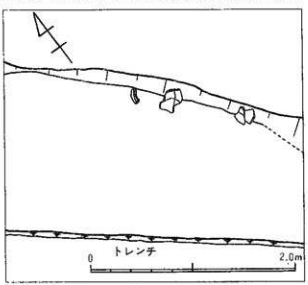
［ NO.1：X＝－122,000　Y＝36,400　　NO.2：X＝－122,000　Y＝36,500
　NO.3：X＝－122,050　Y＝36,400　　NO.4：X＝－122,050　Y＝36,500 ］

調査の結果，B１・４・５・９・18～22・26は耕作土の下が粘性の地山になり，畑地化の際，改変されており，遺構や包含層は調査区の中央部を南北に広がっていることが判明した。

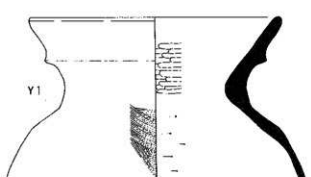
層序は基本的には，耕作土，黒褐色土（黒ボク）地山と続いており，上器が出土するのは黒褐色土中からである。出土遺物は少量で磨滅が顕著なものが多く，二次的移動（流れ込み）によるものが多いと思われる。

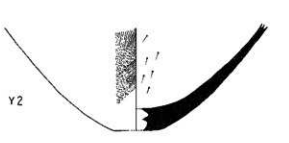
B11は調査区の中で最も多くの土器が出土した試掘区で，黒褐色土に掘り込まれた住居跡と推定される落ちこみが検出された。平面プランや詳細については不明であるが，検出面から床面までの深さは約25cmで床面は平坦である。壁溝やピットは検出されなかったが，壁面から遺構に伴うものと考えられる弥生土器が出土した。Ｙ１は壁面から出土した壺型土器で，口縁は逆「ハ」字状に外傾する複合口縁で，口径は19.6cmある。口縁端部は丸くおさまり，器壁はやや厚めある。外面は頸部から口縁端部にかけて無文でヨコナデ，胴部は不定方向にハケの後ナデ調整を施している。内面は口縁部が横方向にヘラミガキ，胴部はヘラ削り調整である。Ｙ２は土器の底部で，胴に向かって大きく開くもので，わずかに平底がみとめられる。調整は外面がハケの後ナデ調整，内面はヘラ削りでＹ１と同一個体と思われる。これらの遺物の特徴からB11検出遺構は弥生時代後期末のものであると推定される。

この他の試掘区では，Ｂ２・B14で土坑状の落ちこみを検出したが規模や性格は不明である。



第３図　B11試掘区平面図（１：20）

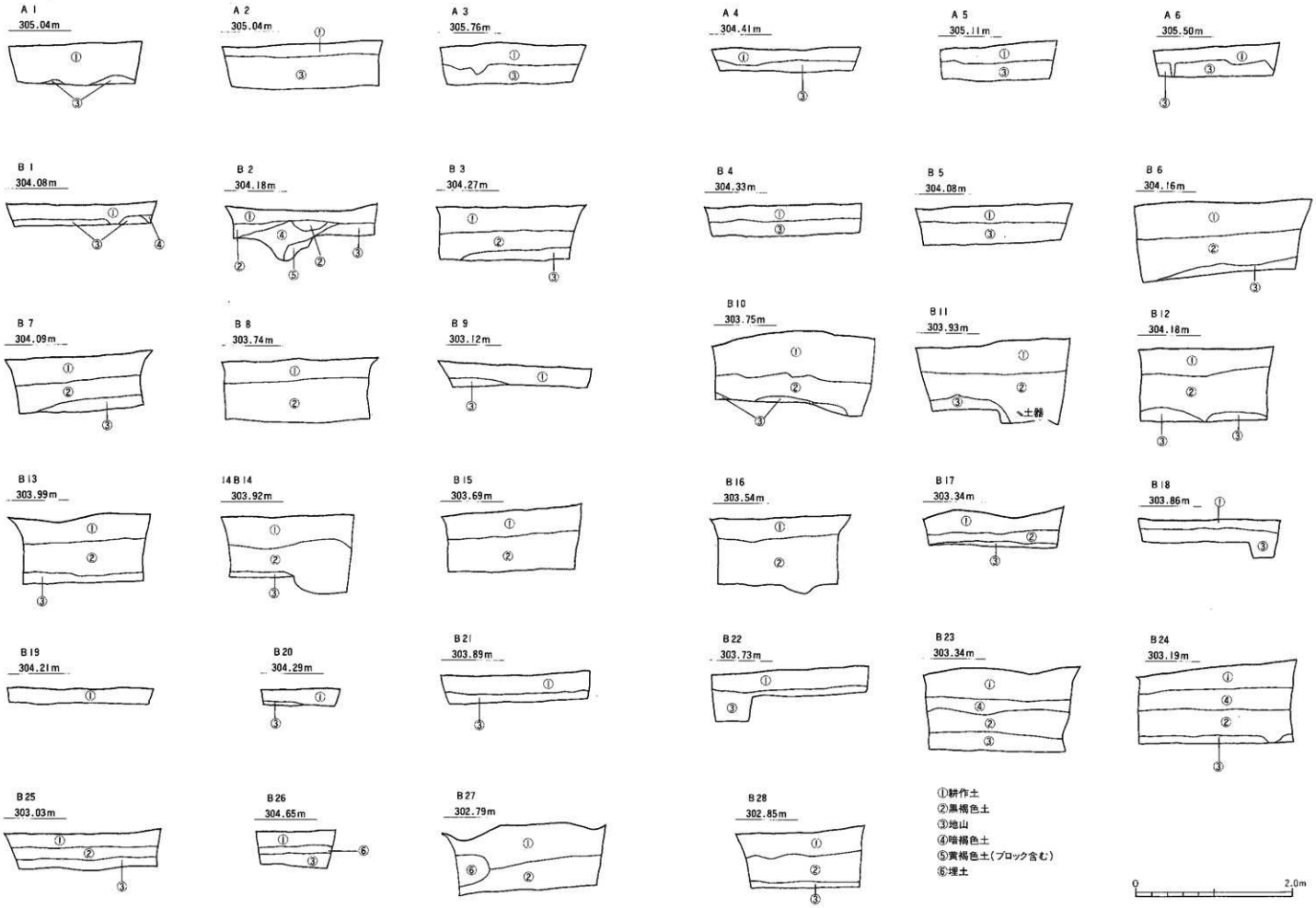




第４図　B11試掘区出土弥生土器実測図（１：３）

２．包含層出土遺物（第６・７・８図，図版第６ｂ～第８ｃ）

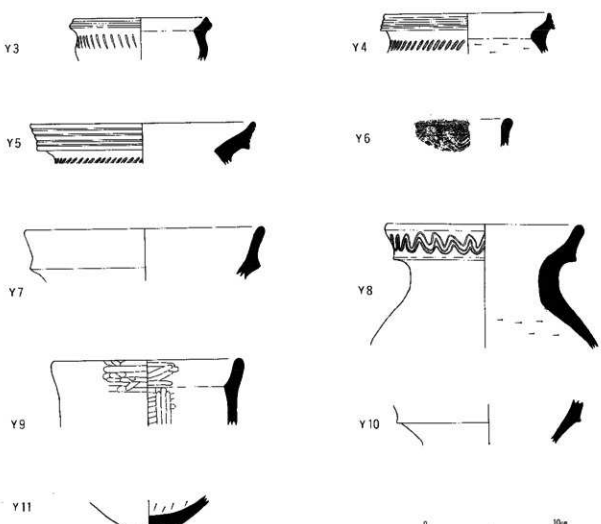
A調査区の各試掘区からは遺物の出土は皆無であった。B調査区28試掘区のうちＢ１，B19の耕作土中からそれぞれ弥生土器の小片が１点ずつ出土したが，他は全て包含層中からの出土であった。ほとんどが小片であり，全体がわかるものは非常に少なく実測できたものを図示した。



第5図　各試掘区土層断面図（1：40）

弥生土器（Y３・４・５・６・７・８・９・10・11）

Y３はB６より出土した口径10.0㎝の鉢形土器である。口縁は「く」字状に外傾し，口縁端部は平坦に仕上げられ，１条の凹線が巡る。頸部にはヘラ状工具で斜行刺突が施されている。内面は風化により詳細は不明であるがナデかヘラミガキが施されている。Y４はY３と同じくB６より出土した口径12.2㎝の甕形土器である。口縁はわずかに内傾し上下に肥大化する。複合口縁外面に３状のクシ描き沈線が巡り，頸部にはヘラ状工具で斜行刺突が施されている。内面は口縁部ヨコナデ，胴部はヘラ削りである。Y５はB12より出土した口径16.6㎝の甕形土器で，口縁は逆「ハ」字状に外傾し４状のクシ描き沈線が巡る。頸部には斜行刺突文が施され内面はヨコナデ，ヘラ削りである。Y６はB14から出土したが，器種，口径は不明である。口縁端部は肥厚し丸くなり，外面は櫛歯状工具による波状文が巡り，内面はヨコナデが施されている。Y７はB13から出土した甕形土器である。口径は18.0㎝で口縁はY５同様外傾するが無文である。口縁端部は丸く仕上げられ，外面は風化により不明であるが，内面はヨコナデが施されている。Y８は昭和40年ごろ畑地造成工事中に発見されたものを実測したものである。器種は壷形土器で器壁は厚い。口縁は外傾し，端部は肥厚し丸くなる。口縁外面は櫛歯状工具による波状文が巡るが，頸部以下は風化により調整不明である。



第６図　包含層出土弥生土器実測図（１：３）

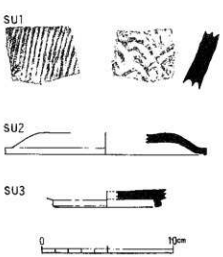
内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ，以下ヘラ削りである。Y9はB17から出土した壷形土器であるが，長頸壷か短頸壷かは不明である。口径は14.0cmで口縁がわずかに外傾し，端部は丸くなる。外面口縁部はヘラミガキが施されているが，頸部は風化により不明である。内面は口縁下端に断面三角形の稜があり，稜より上部がヘラミガキ，下部がヘラ削りの後不定方向にナデが施されている。Y10はB15から出土した鼓形器台である。外面ヨコナデ，内面はヘラミガキが施されている。Y11はB6から出土した土器底部である。平底の径は4.2cmで胴部に向かって大きく開く。外面は風化により不明であるが，内面は縦方向にヘラ削りが施されている。

土師器

小片で器種，器形は不明である。実測できるものは皆無で図示することができなかった。

須恵器（SU1・2・3）

出土点数は5点である。その内実測できるもの3点を図示した。SU1はB28から出土した大甕の胴部で，器壁は1～1.3cmで外面は平行タタキ，内面は同心円タタキをほどこしている。SU2はB10から出土した蓋で口径15.4cm，高さ2.1cm，天井部は平坦で中央部に輪状つまみを付けている。口縁端部は屈曲し，水平にした後，短く垂下させ外面に平坦面をもっている。内面は回転ナデ調整である。SU3はB23から出土した高台付き坏である。口縁部を欠損しているので口径は不明であるが，高台は底部の内側に付き，高台接地面は内側端部である。



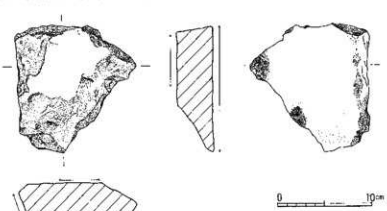
第7図　包含層出土須恵器実測図（1：3）

磁器

B28から出土した磁器であるが，耕作土と黒褐色土の境から6点出土した。小片で器種等は不明であるが，肥前系の染付である。

石器

B11黒色土から出土した砥石である。石材は細粒砂岩で，上面全体と側面の一部に使用痕が認められる。形状は台形を呈し縦13.5cm，横12.5cm，厚さ3.8cmである。三辺に未加工面が認められるが，採石時の粗割面か後の破損面か不明である。



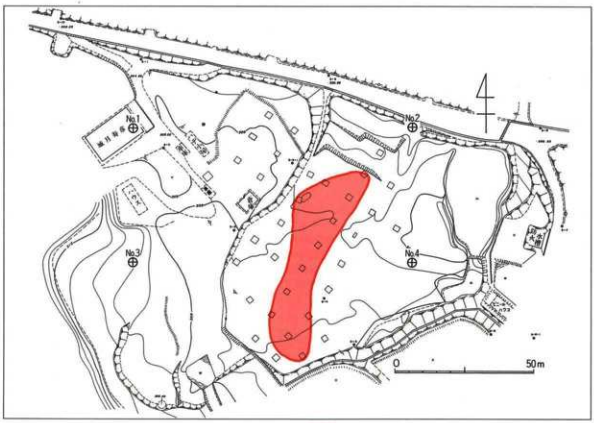
第8図　包含層出土石器実測図（1：4）

Ⅳ. まとめ

宮原遺跡は昭和40年ごろ，タバコ畑造成の際，弥生土器が採集され遺跡として知られるようになった。今回の調査は，土地再利用計画内の遺跡範囲や包含層の有無を明確にすることを目的に実施した。以下，調査によって得られた成果についてまとめておきたい。

1．遺跡の範囲について（第9図）

調査は丘陵上をA・B２つの調査区に分け，34か所の試掘区を設定して行った。調査の結果，A調査区は開墾により旧地形は完全に改変されており遺構，遺物，包含層は確認されず遺跡は存在しないと考えてよい。B調査区の東西端の層序は耕作土，粘性の地山と続き，開墾の際削平されていることが判明した。遺物包含層は，調査区のほぼ中央部を南北に帯状に広がっており，東西約15～20m，南北約70mの範囲とみてよいであろう。しかし，出土遺物の多くは小片で二次的磨滅が顕著なので，南側丘陵尾根からの流れ込みの可能性が強い。昭和40年ごろの開墾の際，多くの土器が出土したのは南側丘陵尾根部であることから，遺跡の中心は今回調査した区域の南側丘陵尾根を中心とするあたりではないかと思われる。



第9図　遺跡範囲図（赤刷は遺跡範囲）

〔 NO.1：X＝−122,000　Y＝36,400　　NO.2：X＝−122,000　Y＝36,500
NO.3：X＝−122,050　Y＝36,400　　NO.4：X＝−122,050　Y＝36,500 〕

2．出土遺物について

遺物は弥生土器や須恵器などが出土したが，出土量はわずかであった。

弥生土器は，弥生後期の複合口縁を有する土器が多く，口縁部に凹線文，沈線文，波状文を施すものや無文のものもある。弥生時代後期になると中期後半に盛行した凹線文が衰退し，ヘラ状工具やクシ状工具による沈線文から，波状文，無文へと変化していく傾向にあり，本遺跡出土の土器も施文や器形の特徴から，Ｙ３・４が後期前葉，Ｙ５が後期中葉，Ｙ６～９が後期後葉であると推定される。Ｙ10は鼓形器台で，脚部も幅広くなり器受部は無文である。鍵尾Ａ５号墓式器台[1]に並行すると考えられ，Ｙ６～９と同様後期後葉ごろ製作されたと推定される。

須恵器SU１は大甕の胴部であるが詳しい時期は不明である。調整の特徴から古墳時代後期以降のものである。SU２は器高が低く輪状つまみを有する蓋である。瑞穂町内での類例はコオギヤスミ窯跡，江迫窯跡等久永古窯跡群と称される窯跡群や野田西遺跡[2]，ロクロ谷遺跡[3]等で出土している。また近隣では広島県大朝町岡の段Ｃ遺跡[4]や旭町重富遺跡[5]の竪穴住居跡でも類例が出土している。岡の段Ｃ遺跡ではその年代を８世紀中葉とし，重富遺跡では８世紀前葉から中葉としている。また，輪状つまみとボタン状つまみの相違はあるが，天井部から口縁端部にかけての形態は大阪陶邑編年Ⅳ３段階[6]と同様である。これらのことからSU２は８世紀中葉から後葉にかけて製作されたと推定できる。SU３は底部のやや内側に高台が付く坏であるが，SU２とほぼ同時代であると考えられる。

B11黒褐色土包含層から出土した砥石は，伴出した土器の特徴から弥生時代後期のものと推定される。

3．おわりに

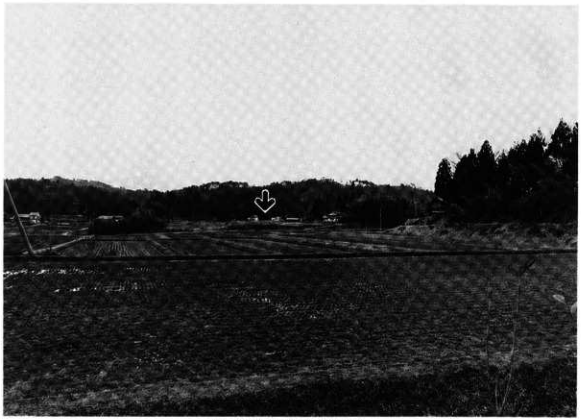
今回の分布調査では宮原遺跡全体の範囲については確認できなかったが，土地再利用計画内の遺跡の範囲や，弥生時代後期の遺構の存在を確認することができた。今後土地再利用の計画が具体化される場合は，調査の結果を参考にして関係機関と具体的な遺跡の取扱協議が必要であろう。

註

(1).松本岩雄「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年－山陽・山陰編－』 1992年５月 木耳社
(2).瑞穂町教育委員会『いにしえの瑞穂－水明カントリークラブ内埋蔵文化財発掘調査概報－』 1995年３月
(3).河瀬正利『ロクロ谷遺跡発掘調査概報』 瑞穂町教育委員会 1990年。
(4).㈱広島県埋蔵文化財調査センター『中国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅳ)』 1994年。
(5).島根県教育委員会「重富遺跡」『中国横断自動車広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』 1992年３月。
(6).中村 浩編『須恵器集成図録近畿編Ⅰ』 雄山閣出版 1995年５月。

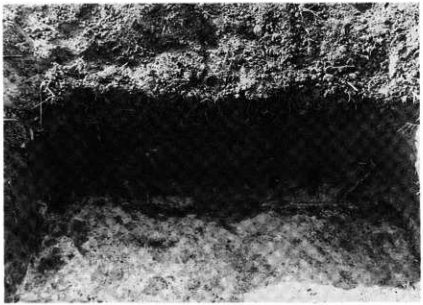
図　　版

a．宮原遺跡空中写真（西より）

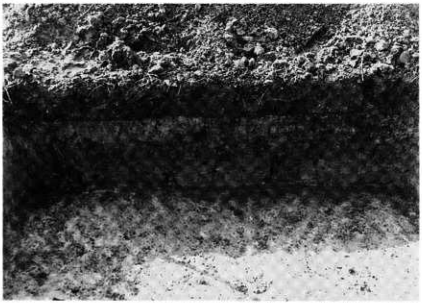


b．宮原遺跡遠影（北より）

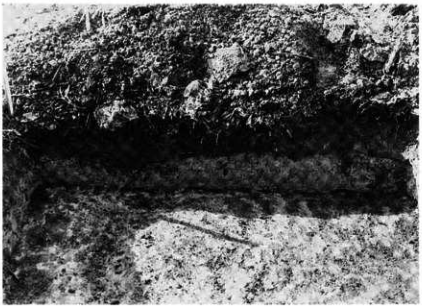
図版第２



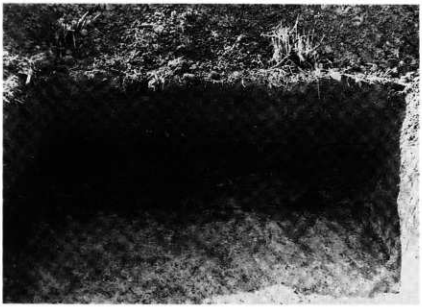
a．Ａ１試掘区
（北より）



b．Ａ２試掘区
（　同　）

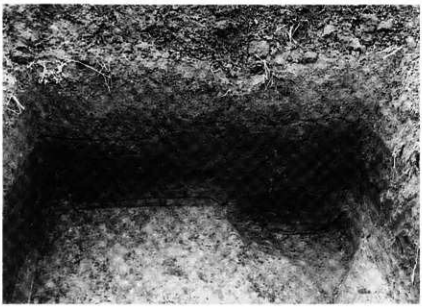


c．Ａ４試掘区
（　同　）



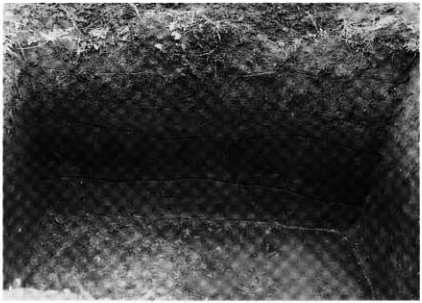
a．Ｂ３試掘区
（北より）

b．Ｂ11試掘区
（西より）

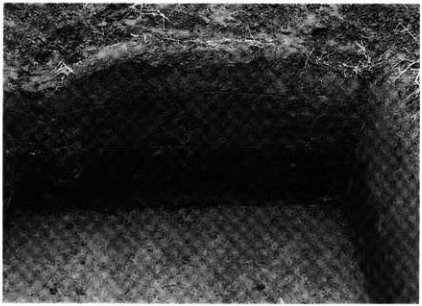


c．Ｂ14試掘区
（北より）

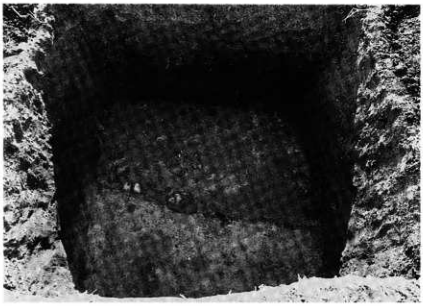
a．B21試掘区
（北より）



b．B23試掘区
（ 同 ）

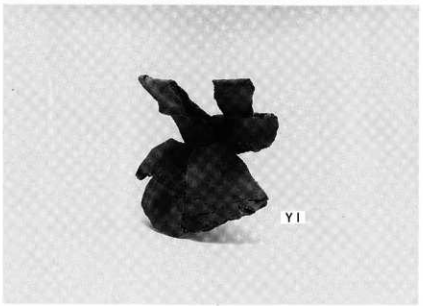


c．B27試掘区
（ 同 ）

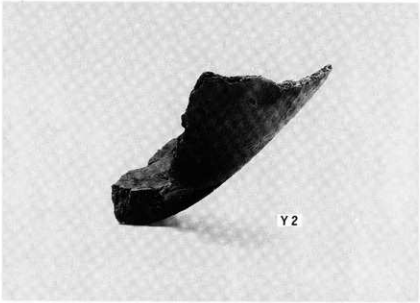


a．B11試掘区遺構検出状況
（北より）

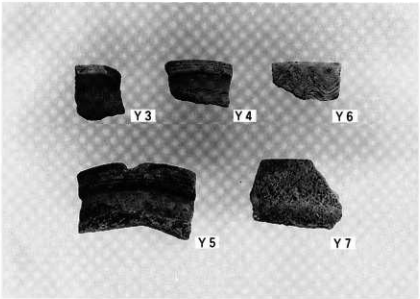
b．同完掘状況
（　同　）



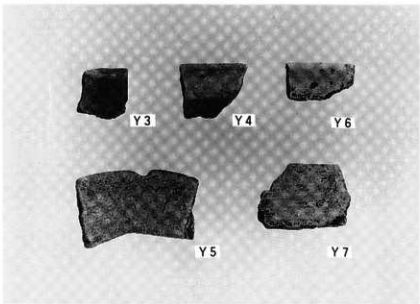
c．B11試掘区遺構より出土
した弥生土器



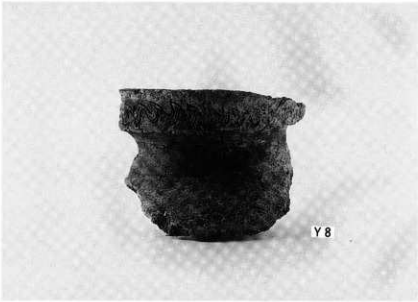
a．B11試掘区遺構より出土した弥生土器



b．包含層より出土した弥生土器
（外面）

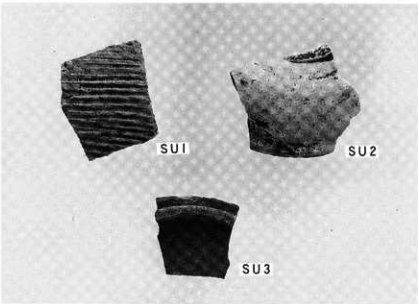


c．同
（内面）



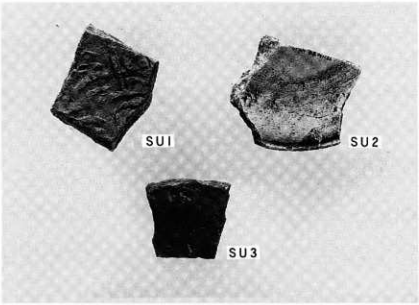
a．畑地造成工事の際発見された弥生土器
（昭和40年ごろ）

b．包含層より出土した弥生土器

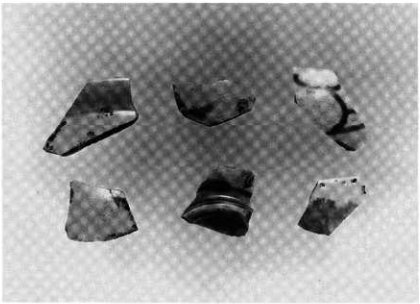


c．同　須恵器（外面）

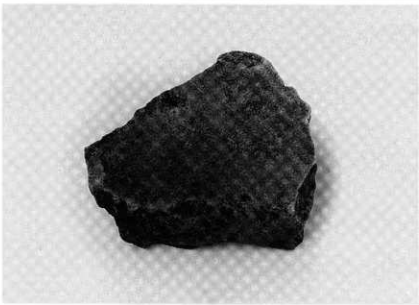
図版第 8



a．包含層より出土した須恵器（内面）



b．同　磁器



c．同　石器

報告書抄録

ふりがな	みやばらいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこくしょ
書名	宮原遺跡詳細分布調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	瑞穂町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第18集
編著者名	森岡弘典
編集機関	瑞穂町教育委員会
所在地	〒696-03　島根県邑智郡瑞穂町大字三日市32番地
発行年月日	西暦　1996年3月

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
みやばらいせき 宮原遺跡	しまねおおちみずほふしたたに 島根県邑智郡瑞穂町大字伏谷 345-1番地外	32445		34度 53分 57秒	132度 33分 56秒	19951128～ 19951222	136㎡ 2×2mの試掘区を34か所設定	遺跡の範囲確認

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮原遺跡	集落跡	弥生時代	住居跡と推定される遺構1 土坑2	弥生土器 須恵器 磁器	遺物は少量であり小規模な集落があったと推定される。

平成8（1996）年3月10日

島根県邑智郡瑞穂町

宮原遺跡詳細分布調査報告書

編集・発行　島根県邑智郡瑞穂町教育委員会
印　　刷　柏村印刷株式会社